

6. 看護学部

1. 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)

看護学部は、教育理念に基づき、①人々の尊厳と多様な価値観を尊重する豊かな人間性と高い倫理観を基盤に、看護職としての責任を自覚し、②主体的に行動する力を育成します。また、③人々を生活者として捉え、科学的根拠と個別性を踏まえて看護を実践するとともに、④情報リテラシーや ICT 活用、⑤地域で多職種と連携・協働する力、⑥グローバルな視点から健康課題を捉え、看護を探究し、生涯にわたり学び続ける力を身につけた看護職者の養成を目的とします。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の7点とします。

1) 人々の尊厳を尊重し、利他の精神と高い倫理観をもって行動する力(情意領域：関心、意欲、態度)

- ①倫理観をもち、人々の尊厳と権利を尊重することができる。
- ②多様な人々の思いや価値観を理解し、相手の立場に立って誠実に関わることができる。

2) 看護職の責任を自覚し、主体的に行動する力(情意領域：関心、意欲、態度)

- ①社会人・看護職としての役割と責任を自覚し、適切に行動することができる。
- ②社会・自己課題に真摯に向き合い、責任をもってやり遂げることができる。
- ③個人情報保護の観点から情報を適切に取り扱うことができる。

3) 人々を生活者として捉え、個別性に応じた看護を考える力(認知領域：知識、理解、思考、判断)

- ①看護の実践や自己の行動に根拠を持つことができる。
- ②各発達段階や健康段階にある生活者としての対象の身体・精神・社会的側面に関わる情報を捉えることができる。
- ③各発達段階や健康段階にある生活者としての対象の健康課題に適した援助を考えることができる。

4) 科学的根拠に基づき、個別性を踏まえて看護を実践する力(認知領域：知識、理解、思考、判断、精神運動領域：技術、実践、身体的遂行能力)

- ①対象と対象を取り巻く人々とコミュニケーションを図ることができる。
- ②専門基礎および看護の基礎的知識、技術を身につけ看護を実践できる。
- ③対象の個別性を考慮した安全・安楽な援助について説明し、実践することができる。

5) 看護の役割を認識し、多職種と連携・協働する力(認知領域：知識、理解、思考、判断、情意領域：関心、意欲、態度)

- ①組織、チームやグループ内での自己の役割を認識し貢献することができる。
- ②医療・施設・地域における多様な職種と連携を図り対象や家族の看護を考える

ことができる。

6) グローバルな視点から健康課題を捉え、異なる文化や価値観を尊重する力（認知領域：知識、理解、思考、判断、情意領域：関心、意欲、態度）

①世界の様々な国や地域の健康課題とその背景を理解することができる。

②看護専門職として国内外の社会貢献に関心をもつことができる。

7) 看護を探究し、生涯にわたり成長し続ける力（認知領域：知識、理解、思考、判断、情意領域：関心、意欲、態度）

①生涯を通じて学び続け、自らの成長につなげることができる。

②看護を探究し続けるために、自己の課題を見出すことができる。

③情報リテラシーを身につけ、ICT を活用して情報を適切に収集・評価・活用し、学びを深めることができる。

2. 「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）

（1）教育課程の編成、教育内容

看護学部のカリキュラム編成においては、ディプロマ・ポリシーに示された卒業時に修得すべき7つの資質・能力を、4年間の学修を通して段階的かつ体系的に修得できるよう、教育内容と科目を配置しています。基礎科目から専門科目へと学修を積み上げ、講義・演習・実習を有機的に連動させながら、看護に必要な知識・技術・思考力・判断力・態度を統合し、看護実践力を育成します。

教育方法においては、学生の主体性を重視し、アクティブ・ラーニング、シミュレーション教育、探究的な学修、ICT を活用した学修等、多様な教育方法を取り入れます。学生が自ら考え、他者と対話・協働し、学びを深める機会を設けるとともに、自己省察を通して自らの課題を見出し、生涯にわたり学び続ける力を育成します。

1) 多様な人々の尊厳や価値観を尊重し、利他の精神と高い倫理観をもって、看護職として行動する人間性を育むための支援を行う。

和の精神Ⅰ・Ⅱ、看護と倫理（基礎）・看護と倫理（展開）など教養教育・看護学教育を体系的に配置する。

2) 社会人・看護職としての責任を自覚し、主体的に学び、行動する力を育むため、初年次教育、演習、実習などを体系的に配置する。

3) 発達段階、健康状態、生活背景等を理解し、人々を生活者として捉え、個別性に応じた看護を考える力を育むため、ライフサイクルにおける発達課題と健康、家族の健康課題、各領域の看護学概論、演習・実習などを配置する。

4) 科学的根拠に基づき、個別性を踏まえ、安全・安楽に配慮した看護を実践する力を育むため、基礎的なコミュニケーションの学習や生活支援技術演習から専門領域の看護実践まで、講義・演習・実習を体系的に配置する。

- 5) 看護職の役割を理解し、対象・家族を中心として多職種と連携・協働できる力を育むため、ケースマネジメントと多職種連携、看護システムマネジメント論、地域創成看護実習、各領域の演習・実習などを配置する。
- 6) 国内外の健康課題や異なる文化・価値観を理解・尊重し、グローバルな視点から看護の役割を考える力を育むため、国際保健、グローバルヘルスと国際看護、国際フィールドワーク、災害看護支援演習などの教育機会を提供する。
- 7) 生涯を通して看護を探究し、自ら課題を見出して学び続ける力を育むため、大学基礎演習、キャリアマネジメント、看護と情報リテラシー、課題研究等を通して、主体的・探究的な学修を段階的に行う。

総合

- 8) 講義・演習・実習を有機的に連動させ、知識・技術・思考力・判断力・態度を統合して看護実践力を育成するとともに、臨地実習などにおける実践経験と振り返りを通して学修成果を段階的に高める。

(2) 教育方法

- 1) 多様な人々の尊厳や価値観を尊重し、利他の精神と高い倫理観をもって行動できる力を育てるため、事例を活用し、倫理的課題について考察するとともに、多様な価値観を踏まえて自らの考えを深める学修を行います。
- 2) 学習者の主体性を引き出し、自立して行動できる力を育てるため、講義・演習科目においてアクティブ・ラーニングを推進し、学生が自ら考え、他者と対話し、主体的に学ぶ機会を設けます。
- 3) 人を生活者として理解し、個別性に応じた看護を考える力を育てるため、講義、演習、実習を通して、発達段階、健康状態、生活背景等を多面的に捉え、生活への影響や人々の反応に着目して看護を考える学修を行います。
- 4) 看護実践能力の向上を目指し、患者の状態を学習者の学習準備状況に合わせて再現した環境での体験型学習であるシミュレーション教育を行います。シミュレーション教育による体験と振り返りを通して、知識・技術・思考力・判断力を統合し、看護実践能力を高めます。
- 5) 多職種との連携や協働について学び、看護の責務と役割を理解するため、講義、演習、実習等を通して、多職種の専門性を理解するとともに、対象者・家族を中心として協働する力を育てます。
- 6) 常に看護とは何かを探究し続け、新たな看護の創造に貢献できる人材を育てるため、看護に関する課題を見出し、情報を収集・分析し、考察する探究的な学修を行います。また、学修の段階に応じて、自らの考えをまとめ、発表し、振り返る学修を行います。

(3) 学修成果の評価方法

教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価する。具体的な評価指標は次の4項目。

- 1) 授業目標への到達度の総合的評価：各科目において、定期試験、小テスト、課題レポート等の提出、授業時の発表内容や発言、学生による授業評価等
- 2) 看護実践力評価：演習科目、実習科目における取り組みや技術到達度の確認をルーブリック評価表などで行う、看護師国家試験模試、看護師国家試験
- 3) 半年ごとの自己省察と目標設定・修正：学修ポートフォリオおよび上記 1) 2) に基づき、担任教員または副担任教員や各実習で実習担当教員と面談
- 4) 就職先アンケート、卒業生アンケート等

3. 「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)

看護学部は、「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような能力・資質、目的意識をもった人物を求めます。

- 1) 看護学を学ぶための基礎的能力を有している人
〔求める要素：知識・技能〕
- 2) 人間の生命や尊厳を大切にし、他者の苦痛や悩みを理解しようとする人
〔求める要素：思考力・判断力〕
- 3) 学問への真摯な態度を持ち、自ら学ぼうとする人
〔求める要素：関心・意欲・態度〕
- 4) 人間の可能性や柔軟な心を信じ、人間に関心を寄せられる人
〔求める要素：思考力・判断力、知識・技能〕
- 5) 失敗を恐れず、失敗から謙虚に学び、成長しようとする人
〔求める要素：関心・意欲・態度〕
- 6) 看護を通して社会に貢献しようという志を持つ人
〔求める要素：表現力、主体性・多様性・協働性〕